

ホロスコープ図の読み方



無料 立ち読み版

占いカウンセラー養成講座

目次

西洋占星学と東洋占星学	10
フォーチュン流 運命学	15
日本人のための東洋ホロスコープ	18
あなたを支配する惑星は？	24
あなたを支配するアスペクトは？	27
あなたを支配する星座は？	30
あなたを支配する惑星の象意	33
太陽	33



ホロスコープ図の読み方

木星



58

火星



54

金星



49

水星



43

月
(太陰)



39

結婚予知を惑星の関係で行う

冥王星



78

海王星



73

天王星



68

土星



63

83

ホロスコープ図の読み方

アスペクトの応用で 相性診断	150度 133	45度・135度 128	60度 122	72度・144度・30度 115	90度 109	120度 104	180度 98	0度 92	あなたを支配するアスペクト (相)の象意 92
-------------------	-------------	-----------------	------------	---------------------	------------	-------------	------------	----------	-------------------------------

月同士のアスペクトをみて、心の距離を判断する

145

あなたを支配する星座象意
149

おひつじ座



150

おうし座



155

ふたご座



160

ホロスコープ図の読み方

てん
びん
座



182

おと
め座



177

し
し座



171

か
に座



166

占いカウンセラー養成講座

みずがめ座



204

やぎ座



199

いて座



193

さそり座



188

占い師向けプロ向け Windows 対応ソフトウェアの紹介
279

秘教学的な感性を必要とする占いカウンセラー
238

エジプト・ギリシア占星学
218

うお座



210

独学　ホロスコープ図の読み方

↳占いカウンセラー養成講座↳

西洋占星学と東洋占星学

■あなたの知っている西洋占星学

あなたは、西洋（欧米）占星学を知っていますか？　もちろん『イエス』ですね。

今から70年前、その当時の日本の若い人たちに対して「西洋占星学って何か知っていますか？」と問いただしたとしたなら、99%の人たちが「知りません」とか「何のことか解りません」という答えが返ってきたことでしょう。

そのくらい西洋（欧米）占星学＝『星占い』という占いは、当時の日本人にはものめずらしく、なじみの薄い占いでした。その証拠に、どの雑誌を開いても、

新聞を開いても、テレビを見ても、西洋占星学による占いコーナーはまだ存在していません。です。

その知られていなかった西洋占星学を、誰もが知っている現在の『星占い』へと変えていくきっかけを作ったのは、1冊の単行本でした。

昭和41年に門馬寛明氏の著作『西洋占星術』（光文社刊）が世に出てベストセラーとなったからです。それまで平均的日本人の誰も知らなかった西洋占星学は、一躍世間の注目を集め、右肩上がりで知られていく占いへと変わったのでした。

実はその3、4年ほど前から、後に第一次占いブームと呼ばれるものが我が国には到来していました。黄小娥氏の『易入門』、浅野八郎氏の『手相術』が、それぞれ同じ光文社から刊行されていて、いずれも超ベストセラーとなって世間の評判を呼んでいたからです。その結果、光文社の『占いシリーズ』の第3弾として、白羽の矢が立ったのが神秘性とわかりやすさを備えた『西洋占星術』という、

まだ日本人にはなじみの薄い占いだっただけです。

その後、ルネ・バンダール・ワタナベ、ルル・ラブア、鏡リユウジなどの女性雑誌を中心に活動し、人気を得て行く西洋占星術師が何人も輩出されるようになりました。

女性雑誌は、そのことごとくが『星占い』のコーナーを常設するようになり、それは、やがて一般誌へも波及しました。

さらには、TVや新聞でも『星占い』を掲載するものが増えて、マスメディアの占いといえば『星占い』でもあるかのように扱われることが多くなりました。その結果、日本人で西洋占星学を知らない人はいなくなり、自分自身の生年月日と同じような感覚で『自分の生まれ星座』を言えるような国民へと変わっていったのです。

■平安時代にも使われていた西洋占星学

ところが、西洋占星学の原型は、なんと今から1100年以上も前に、すでに日本にもたらされていたものなのです。ちょうど、空海などの遣唐使が活躍し、今の日本の文明の基礎をつくった人たちが多く輩出された時代です。

正確に言うと、平安時代の貞観七年（西暦865年）、唐から帰国した僧の宗叡（しゅうえい）によって、ギリシャのプトレマイオスによる『テトラビブロス（四書）』という占星学原典の漢訳など四書がもたらされていたのです。平安時代というと今流行している安倍晴明などの陰陽師が活躍した時代でもありませんね。

そして、それらを元に、我が国でもすでに平安時代から、ホロスコープに基づく西洋占星学的判断が宿曜師と呼ばれる人たちによって行われていたのです。その時代のホロスコープさえも現存しています。

ただ、日本における西洋占星学の時代は長く続かず、鎌倉、室町、江戸、明治と完全に命脈が絶たれて、忘れられた占いとなっていたのです。

日本に再び西洋占星学がよみがえったのは、大正3年（1914年）に隈本有

尚（くまもとゆうしょう）氏が著した『天文ニ依ル運勢予想術』によつてです。ただし、この本はやや難しかったのでほとんど売れず、一般には普及しませんでした。『占星学』でなく、『考星学』という名称が使われているのが興味深いところですよ。

■中国で融合した西洋占星学

一方、平安時代に西洋占星学的文献をもたらしてくれた中国では、『七政四余（しちせいしよ）』という名称によつて西洋占星学が中国化され、さらには『子平（日本で言う四柱推命）』と組み合わせた『星平会海（せいへいかいかい）』という複雑な占いへと変貌させていきました。

そればかりではなく、七政四余や星平会海を基本にして、占星学を完璧に中国化した『紫微斗数（しびとすう）』と呼ぶ占いまで新たに誕生させているのです。これらもろもろの占星学が日本であまり流行しなかったのは、生まれ時刻が判っていないと占いの精度が落ちてしまうということと、盤を出すプロセスが手計

算でやるとなると複雑で占うのに時間がかかるからです。

このように、東洋（中国）占星学は、中国や日本だけの地域に限られる占星学ではなく、古今東西の占星学の集約であり、各地域や時代のエッセンスがことごとく凝縮された占星学といえるのです。

フォーチュン流 運命学

宇宙に輝く星をみて人間の運命を占うということを初めてやったのは、古代のユダヤ人です。もう何千年も前にことですが、古代ユダヤ人は世界に拡散せざるをえない状況に追い込まれました。あるグループは合理的な発想を好むヨ-

ロッパへ移住し、そこでホロスコープを發展させました。あるグループは、哲学的な陰陽思想を好む東洋に移住し、そこで四柱推命の原型や宿曜経を發展させました。こうやって考えていくと、すべての占術の根底には、共通した思想があるということがわかるでしょう。それを習得してしまえば、四柱推命もホロスコープも宿曜経も紫微斗数推命もすべてを融合して使えるようになるのです。この占い技法を、星平会海（せいへいかいかい）と呼びますが、これを習得してこそ、ひとりの人間を縦横無尽に診断することができると思ってもいいでしょう。

医学でいうと、総合診療みたいなものです。1人の医者が、総合的に判断する医療でこれができる医者は日本にはほとんどいません。たとえば、筆者自身の体験をお話してみましよう。お腹と背中が痛くて、吐き気もひどく病院にかつぎこまれたことがあります。最初の医者は、ノロウイルスを疑い検査をしましたが、はずれでした。次に、盲腸を疑いましたが、はずれでした。次は、

わからないからとりあえず、MRIという最先端の機器で体全体をスキャンしました。そうすると腎臓結石が原因でした。無事に石は処理して痛みと吐き気はなくなったのですが、下半身に違和感が残ります。それで専門の泌尿器に行ったら、前立腺の肥大が根本の原因だと分かりました。今の医者は、専門分野しか分かりません。では、自分の痛みの症状から専門を当てるのは、だれがするのでしょうか？ 患者が見当をつけて専門医を回らないといけないのです。

四柱推命もホロスコープも宿曜経も紫微斗数推命も、それぞれの良さがありませんが、最初に患者がすべきことは、総合診療ができる医者にかかることです。それが、星平会海です。

日本人のための東洋ホロスコープ

■あなたの生活環境

あなたは、ご自分を東洋人だと思えますか？ それとも西洋人だと思えますか？もちろん、99%くらいの人は東洋人と答えるでしょう。では、あなたはアメリカ的な生活と、中国人的な生活と、そのどちらに近い生活を送っていると思われますか？ 多分、ここでは答えが分かれるでしょう。

なかなか答えられない人も多いことでしょう。われわれ日本人は、分類から言えば東洋人ですが、現代の生活様式などはどちらかといえばややアメリカ的とは思われるものの、総合的に考えれば東洋と西洋の中間に行くような生活を送っていることは事実です。

近年になって、上海などの一部地域は近代化が進み、巨大なビルが立ち並び、まるで西洋でもあるかのような生活様式に変わりつつあります。近代化が進む

ことによって、洋の東西の格差はますます縮まっていくことでしょう。西洋が東洋をあらゆる点でリードしている、という一時代前の神話は、目覚ましいアジア諸国の成長によってしだいに通用しなくなりつつあります。

■国境がなくなる占いの世界

占いの分野においても、西洋式と東洋式の垣根はしだいに取り払われつつあります。たとえば、風水という占いは、元々は中国の占いですが、欧米のほうがアジア諸国よりも先に火がつき、その後を追うようにして日本でもブームが巻き起こったのです。

近年は欧米の風水師によって書かれた著作が翻訳され、日本国内で出版されるケースが増えてきました。中国の風水師による著作もないわけではありませんが、住宅事情や生活習慣の違いなどがネックとなって、ストレートに日本では受け入れられていません。

誤解の無いように述べておきますが、日本でもっとも知られている日本人の

風水師の説くところの風水は、本場中国の風水とは似ても似つかないものです。

■生まれた時刻を分かっていることを前提とした西洋占星学

ホロスコープ占星学の分野では、欧米のテキストのことごとくは出生時間が判明している人たちを対象として著述されています。出生時不明の人は最初から対象外なのです。

そういう学問であり、占いであり、テキストなのです。それなのに、日本の占星術師でそのことを念頭において西洋（欧米）占星学を学び、実践している方はほとんどいません。

日本人の場合、生まれ時間まで正確に判明している方は3割にも満たない、というのが現状です。本当はもっと判るはずですが、日本人全体の意識として、きちんと調べようとする人は大体それくらいしかない、ということなのです。

ここが問題なのです。

その結果、日本ではホロスコープといっても生まれ時間を省いたホロスコープ

が数多く作られ、生まれ時間が判明している人向けの欧米流解釈で判断されているのが実情です。

それならば、最初から出生時不明でも判断できる日本人向けの新しい占星学解釈が必要なはずですが、そういう努力をしている占星術師は極めて稀です。

■カウンセリングのツールとしての西洋占星学

もうひとつ西洋（欧米）占星学がそのまま採用しにくい理由が日本にはありません。欧米の場合、カウンセリング制度が発達していてそういうやり取りに抵抗感がなく、ホロスコープに基づく判断とは言っても、実際には心理学的なカウンセリングも当然のように行われるケースが多いのです。

ホロスコープはあくまでも潜在的原因を探るための補助として採用され、占いの依頼者もそれをごく自然なものとして肯定しています。

つまり、実際の出来事が先にあり、その原因とか理由を求めて占いを依頼するケースも多い、ということです。日本の占いの依頼者でそういうケースはほと

んどありません。

その代わりのように、最近の日本で多いのは精神的に癒されたい、という目的から占いを依頼してくるケースです。

■フォーチュンソフトが推奨するホロスコープとは

これらの事情を踏まえた上で、企画・採用されたのが新しいホロスコープであり、判断技法であり、最終メッセージなのです。東洋（中国）的な色彩も加えられているために、西洋（欧米）占星学によるオーソドックスなホロスコープとはいろいろな意味で違っています。

具体的には次のようなものが主な相違点です。

①生まれた時刻がキーになっている通常のハウス区分法を重視採用しない。

どうしてもハウスを使う場合で、生まれた時刻が分からない場合は太陽星座

を第一ハウスとして認定する。

②生まれた時刻が分かっていると、月の位置が不正確になってしまいが、アスペクトを中心にした理論を採用することで、この問題を解決している。

③アスペクトの集中する惑星を、支配星を決定している。

必ずしも、太陽がその人に一番影響を与えている惑星とは限らないことは、実際に鑑定をやっている人なら経験することです。

④惑星の集中する星座を、支配惑星として決定している。

必ずしも、太陽が格納されている星座がその人に一番影響を与えている惑星とは限らないことは、実際に鑑定をやっている人なら経験することです。

全ての星の分布状況やアスペクトをみて、支配惑星、支配星座、支配アスペクトを決定することで、その人の性格や特徴を最初に決定することが、当社が推奨する新しいホロスコープの技法です。そして、このパターン分類化は、四柱推命という格局的なものだといえることができます。月支元命を格局にしてパター

ン分類化したり、生まれた時刻が分からないと外格・内格が区分できない技法を使うよりも、こちらの方が実用的だといえます。

考えてみれば、われわれ日本人は中国をはじめとする東洋の文化も、アメリカをはじめとする西洋の文化もそれぞれに吸収しながら、その一方で日本的な文化や伝統を守り続けて今日まで来ました。

占いの世界でも、西洋かぶれや東洋かぶれの人は沢山いますが、古今東西の占星学知識を総合的に吸収し、日本の魂を加えた最新のホロスコープこそ誰もがひそかに待ち望んでいた答えであると信じ、あなたの精神的支柱としてお届けいたします。

あなたを支配する惑星は？

■もともとの意味

元々『ホロスコープ』という言葉の原意は『星の見張り番』という意味で、古代ギリシャ語からきています。

当時の占星術師は、特に東の地平線を上昇していく惑星を実際に観測することが重要な任務のひとつでした。新生児が誕生したときに、東の地平線を上昇し始める惑星は、その生まれたばかりの児の人生を象徴すると信じられたからです。

一般の西洋（欧米）占星学的解釈からすれば、上昇点（アセンダント）付近に位置していた惑星を、その人の『象徴星』と見立てていた、ということになります。

けれども、当然のことながら新生児が誕生しても、東の地平線を上昇する惑星がないこともあります。その場合、上昇中の黄道12星座のひとつがその役割を負うこととなります。

いわゆる上昇宮としての星座です。そこで、その星座宮を本来の住処として

いると信じられた惑星が『象徴星』の役割を果たしたのです。

これが、一般の西洋（欧米）占星学で言われてきた『支配星』の真の意味です。

■中国でいう支配星

古代中国では、「天人相関説」という考え方が広く信じられていました。つまり、天空上に起こる出来事は地上の人間社会にもそのまま反映される、とする考え方で、王の政権交代さえもそれを逃れることはできない、とされていました。

基本的に占星学は洋の東西を問わず、この考えを継承しているといえます。

■フォーチュンソフトがいう支配星

われわれのホロスコープ解釈においては、上昇星も参考にはしますが、それ以上に個々の誕生時における各惑星同士の相関（アスペクト）関係を重視し、最も強力な相関（アスペクト）数を持つ惑星を『象徴星』『支配星』とみなすのです。

したがって、ギリシャ占星学のように『象徴星（上昇星）がない』ということにはならないのです。当然、『支配星』は『本人を象徴する惑星』として人生に多大な影響を及ぼすのです。

あなたを支配するアスペクトは？

■アスペクトとは？

アスペクトとは、地球から見た場合の惑星と惑星とが作る角度のことです。日本語では『座相』とか『角相』とか『星相』と呼ばれるものです。天空上を移動して行く二つの惑星が、地球から見て一定の角度を形成する位置に来た場合を『アスペクト』として特別視するということです。二つの惑星の間に、ア

スペクトルとしての相関関係が働くからです。たとえば、太陽と月とが地球から見て重なり合ったときに『新月』ですが、天空上のアスペクト角度としては『0度』です。

同じく太陽と月とが地球から見て正反対に位置したときに『満月』ですが、天空上のアスペクト角度としては『180度』です。当然のことですが、地球から見た場合は新月になり、満月になり、それぞれ地球上に多大な影響を及ぼしますが、それはあくまで地球上にとつてであり、太陽や月それ自体に何らかの変化があるわけではありません。つまり、地球から見た各惑星同士の相関（アスペクト）関係は、地球上の生命に対してのみ働く、という特徴があるのです。

そのアスペクトの出現頻度が一番多いものが、あなたを支配しているのです。

■天文学者ケプラーの遺言

もちろん、これらの法則は太陽や月ばかりではなく、ホロスコープ上のすべての惑星に共通の原理です。

占星学では、誕生時点ですでに形成されている角度を『出生時（出生天体図）のアスペクト』として捉え、刻々と移動通過中の惑星と出生時点の惑星との間で作られる角度を『通過中（トランジット）のアスペクト』として捉えるのです。

アスペクトとしての角度の種類・分類は、時代により、地域により、占星術師により、それぞれに微妙な違いがあつて一定していません。アスペクトの種類は、天文学者として今日まで知られるドイツのヨハネス・ケプラーによつて大幅に追加されました。ケプラーは、気象予測のための観測結果から新しいアスペクトがいくつも発見されたのだ、と著書の中で伝えていきます。1606年、占星術師でもあつたケプラーは『10年前から、私はただ星相（アスペクト）とということだけを考え、占星術を調和の科学に移行させようとしていました』と、謎の手紙を友人に遺して、アスペクトこそ占断の鍵であると主張しています。

あなたを支配する星座は？

■星座名の由来

夜空の天空上には、さまざまな星が輝いています。われわれが一般に『星』というとき、それは星座の中に属する『恒星』を意味しています。恒星とは、自ら光を発している天体です。われわれの地球は、太陽系宇宙と呼ばれる空間の中にあつて、恒星である太陽を中心として水星、金星、火星、木星、土星、天王星、海王星、冥王星などと共に惑星集団を作っています。

太陽系宇宙の本来の姿は、地球を含めた惑星集団が太陽の周りをコマの回転のように回っているのですが、見かけ上は地球を中心に回っているように見えます。その見かけ上の太陽の通り道付近を『黄道帯』といいます。

その黄道帯付近に位置している『太陽系外の恒星たち』を、見えない線で結び

合わせ、12種類の星座に区分したものが『黄道12星座』です。ただし、実際の星座の大小はまちまちで、均等化されていません。

■12星座

一般に『おひつじ座』から始まる12星座は、紀元前の700年～500年位には成立していたと思われませんが、判然としていません。12星座すべてが整うのはそれくらいとしても、『おうし座』・『しし座』・『さそり座』・『みずがめ座』の天空上で大十字を描く4星座は、紀元前3000年から2500年くらいの古代エジプト王国（古王国時代）では、すでに成立していた可能性があります。

おうし座に由来するアピス、しし座に由来するスフィンクス、さそり座（エジプトではハゲワシ座）に由来するアジャト、みずがめ座に由来するハピ、といった神々が当時から崇拜され、彫像やレリーフとして残されているからです。

ちなみに、その当時の春分点はおうし座（アピス＝牡牛の神）にあつて、現在のようにおひつじ座ではありません。

しかも、春分点がおひつじ座に移行した新王国時代からは、『アメン』と呼ぶ『雄羊の神』へと信仰対象が移っているのです。

5000年前から神々として崇拜を受けていた『太陽系外の恒星たち』、それらは、理屈ぬきにわれわれ地球上の人々を支配し、あるいは今日まで導いてきた星座（象形）名といえるのかもしれない。

あなたのホロスコープをみて、惑星が一番集中している星座、それをあなたを支配する星座と決定するわけです。

あなたを支配する惑星の象意

太陽



あなたが太陽系の星（月・太陽・金星・水星・火星・木星・土星・天王星・海王星・冥王星）の中で、もっとも強く影響を受けているものは、太陽という星です。ですから、太陽という星の実体と性質を知ること、あなたのもっとも重要な宿命的なものが分かるのです。それでは、具体的に説明してみましよう。

■宇宙の中の太陽

われわれが暮らしている地球は、巨大なレンズ形に広がる『銀河系宇宙』と呼ばれる星の大集団の中に位置しています。銀河系の中心からややずれたところ

に、宇宙家族としての小集団『太陽系』があり、われわれの地球もその中にあります。もちろん、その中心は巨大な太陽で、地球の109倍もあり、われわれに光と熱とを与え、生命の誕生を促してくれた恒星です。太陽系の惑星たちは、いずれも太陽の周りを回っているのですが、丁度よい位置関係にあった地球のみが生命を与えられたのです。したがって占星学上でも、太陽は何よりも『生命力』と『意志力』を象徴しています。

見かけ上の太陽は、朝方に東の地平線上に現れ、徐々に上昇して昼間に南中（太陽が真南にきたことをいう）し、やがて下降していつて、夕方になると地平線下に沈みます。毎日これを繰り返しながら、1年をかけて天球上（すべての天体が、地球上の観測者を中心とした球の球面上に投影されると考えたときの、仮想の球体）の12星座を背景に黄道（地球からみて太陽が運行するように見えるみかけの軌道）を1週します。

本来は動かない恒星である太陽も、占星学上では、地球の観測者を中心に考えていきますので、動いていく惑星として扱います。

■古代国家と太陽

神話上の太陽は、エジプトではラー、ケペル、アトウムなどと呼ばれ、バビロニアではシャマシユ、ウトウなどと呼ばれ、ギリシャではアポロン、ヘリオス、ミトラなどと呼ばれ、中国では陰陽の『陽』の象徴星でした。

数秘学上では、太陽には『1』が当てはめられ、物事の開始、推進力、指導力、開拓者精神を意味します。黄道上の12星座では、『しし座』の支配星であると同時に、しし座、おとめ座、てんびん座、さそり座、いて座、やぎ座の『昼間星座』を統括している惑星です。

ちよつと難しくなりますが、中国やエジプトでの解釈をまじえて説明を加えていきましょう。『昼間星座』は、中国では、陽が徐々に欠けていく『陰遁期間』として表現されています。『昼間星座』と『陰遁期間』とは、1星座分ずつれているのですが、これは昼間星座が支配星とともに、夏至がしし座に位置して

いた時代に、すでに定められていたと推定されるからです。

エジプトのギザにある大スフィンクスは、その時代の彫像ですが、人頭獅子身であり『しし座』の象徴です。緯度30度に位置し、真東を向いています。エジプト名は『ホル・エム・アケト』で、『地平線上の太陽神』です。そのスフィンクスの神殿跡に夏至の日の夕刻に佇むと、クフ王のピラミッドとカフラー王のピラミッドの谷間中央に吸い込まれるように沈んで行く太陽を見ることができます。

古代エジプトでは、王は太陽神の化身として『神王』の意味合いを持ち、目映いばかりの黄金に囲まれて暮らしていました。古代中国の殷王朝でも、王は太陽神の化身として、その王名には必ず生まれ日の『十干』文字が含まれていました。『武丁』とか『祖甲』とか『帝辛』といった王名です。これは殷王朝のみの特徴で、それ以前の夏王朝にも、それ以降の周王朝にもありません。

古代中国でも、太陽には10種類の性質的違いがあるとされてきました。そ

れらは日替わりで循環する、という考えが『太陽Ⅱ十干（甲・乙・丙・丁・戊・己・庚・辛・壬・癸）』の原初の発想なのです。

したがって、生まれ日の十干は『太陽の名称』であり、王名がそれを含むことは『太陽王』であることの証明なのです。つまり、太陽の総合的名称としては『陽』が用いられ、個々の性質的違いは『十干』名称により表現する、という考えが貫かれています。

これは同じ太陽であっても、どの12星座内に位置しているかで性質が異なってくる、という西洋占星学と根本的には同様な発想といえるのです。

ここまで、説明すると占いに詳しい読者は、ピンとくるかもしれませんね。そう、西洋占星学の太陽占いは、実は四柱推命の日干占いと根本的には同じ思想なのです。

■結論

最後に具体的に、太陽の性質を説明してみましよう。

支配星の太陽が幸運に作用すれば、若くして社会的な地位、名誉、名声、人氣を得て輝かしい人生を歩むことができます。不運に作用すれば、虚栄と虚飾に満ちた人生となり、蜃気楼を追い求めて続けます。

また、一般には、幼い頃から目立ちたがり屋であり、常に明るく生き生きとして、華やかな雰囲気を持ち、極端に虚栄心が強く、名誉や地位に恵まれやすい人生を歩むことになります。

太陽は、他の星から影響を受けないように、支配星が太陽の人は、他人には影響されず、自分から他人に対し影響を与えていくような人生になります。しかし、そういった実行力はあるのですが、緻密に計画を立てていくことが苦手な場合が多いようです。

月（太陰）



■宇宙の中の月

私たちが日常生活の中で最も目にすることの多い惑星は、太陽と月（太陰）です。正確に言えば、月は惑星ではなく、地球を回っている衛星です。どのくらいの速さで1週しているかというと、27・3日くらいです。その大きさは地球の4分の1くらいで、表面はクレーターに覆われています。けれども、見かけ上の月は太陽とほぼ同じくらいの大きさに見えます。実際には太陽の光を反射しているだけですが、明るく輝いているように見えます。

このように月は、太陽と入れ替わりのように夜空に登場します。この入れ替わりの登場や同じくらいの大きさや明るく輝くという見かけ上の事実から、昼間の太陽と一对の惑星として、夜間の月（太陰）は占星学的に理解されたのです。

太陽の沈んだ暗い夜空の中で、見かけ上の月は刻々とその位置を変え、大きさを換え、形を換え、明るさを変え、色を変えているかのように見ることがあります。これほど変化に満ちた惑星は他にありません。したがって占星学上でも、月は何よりも『変化』と『感受性』を象徴しています。

月の引力は、地球上の海水に影響を与えて、1日に2回潮汐を引き起こすことが知られています。それらに影響される生物も少なくありません。見かけ上の月（太陰）自体も、29.5日くらいの間隔で満ち欠けを繰り返しています。こうした周期に関連あるもの、たとえば女性の月経周期や妊娠なども、占星学的にはこれらと結び付けて解釈されることが多いのです。

■古代国家と月

神話上の月（太陰）は、エジプトではトトと呼ばれ、バビロニアではナンナ、シンなどと呼ばれ、ギリシャではセレーネ、アルテミス、ディアーナなどと呼ばれ、中国では陰陽の『陰』と『陽遁期間』を象徴していました。月（太陰）の

アスペクトが最も多い生まれの人は、その時々々の気分や感情に支配されやすく、住居や職場を変えやすく、時代や流行に敏感で、主体性に乏しく、昼間よりも夕方から夜にかけて活発に行動するという解釈も、月の地球に対する作用と同じと理解したほうが良いのです。

数秘学上では、月には『2』が当てはめられ、公平な精神、協調性がある、二面的生活、別離を表します。

黄道12星座では、『かに座』の支配星であると同時に、かに座、ふたご座、おうし座、おひつじ座、うお座、みずがめ座の『夜間星座』を統括している惑星です。

これは中国では、陰が徐々に欠けていく『陽遁期間』として表現されています。シオマネキという蟹は、月の引力が作用している潮の満ち干に共鳴して外皮の色を変え、餌探しをしています。タロットカードにおける『XVIII・月』の古典的な図柄では、大きな月に向かって吠え立てる二頭の山犬（本当はジャッカ

ル)とともに、ザリガニが描かれていて、さりげなく『月』と『かに座』との密接な関係が暗示されています。

インド占星学では、生まれ時間の不明な人たちに対して、月(太陰)の入っている12星座を上昇宮として扱う流派も存在しています。

中国でも、太陽によって算出される上昇宮を『命宮』、月(太陰)によって算出される上昇宮を『身宮』と分類することがあります。この分類方法は、必ずしも、絶対に必要なものではないのですが、七政四余(しちせいしよ)でも紫微斗数(しびとすう)でも重要視して、鑑定を行う流派もあります。

■結論

最後に具体的に、月の性質を説明してみましよう。支配星の月が幸運に作用すれば、庶民的な印象を与え、多くの人達から愛され親しまれて、家庭的にも幸福な人生を歩みます。不運に作用すれば、憂鬱症で塞ぎこみやすく、昼間の活動が制限されそうです。しかし、いづれの場合も、誰かに影響されやすく、感

水星



情を中心として行動し、変化が多い人生であることは間違いありません。

月というのは、自分の活動力のもととなる感情や気分などを司りますが、その感情エネルギーが、愛情になるのか、憎しみになるのか、実行になるのか、破壊になるのかは、全てあなたの月がどの星に影響を受けているかで決定されるのです。つまり、金星の影響を受ければ、愛情や芸術に対する感情に支配され、水星の影響を受ければ、知的なものに対する感情に左右されるのです。

つまり、どのような人と出会い、どのようなつきあい方をするかで、あなたの人生が決定されるといって間違いではないのです。

■宇宙の中の水星

太陽に最も接近しながら回っている惑星が水星です。このため黄道上（太陽が運行するようにみえるみかけの軌道）の水星は、太陽から28度以上離れることがあります。水星は肉眼観察では大変に見難い惑星で、日の出直前か日没の直後しか見ることはできません。いずれの場合でも、水平線にごく接近した低い位置でしか見ることはできません。

■古代国家と水星

古代中国では、水星のことを『辰星』と呼びました。『時を告げる星』という意味です。常に太陽から離れず、冬至・夏至・春分・秋分の二至二分（にしにぶん）の到来を、予告する目印としての星だったからです。

ちょっと難しくなりますが、宿曜経というインド発生の宿を用いて説明してみましよう。宿そのものが重要ではないので、難しそうな単語に惑わされない

てください。水星は、冬至の日没時には二十八宿中の『斗』から『牛』の間に現れ、春分の時には『奎』から『婁』の間に現れ、夏至の時には『井』から『輿』の間に現れ、秋分の時には『角』から『亢』の間に現れるのです。

こういった、2つの空間の間に現われるということの理解が、実は重要なのです。なぜならば、占星学上、水星は何よりも『伝達』や『通信』や『情報』を象徴する惑星として扱われるからです。

神話上の水星は、エジプトではソカル、プタハなどと呼ばれ、バビロニアではネボ、グドウドなどと呼ばれ、ギリシャではヘルメス、メルクリオスなどと呼ばれます。

中国の神話上では『玄武』（亀と蛇との合体動物）がこれを象徴していました。つまり、呼び名としては『辰星』、それを象徴する聖獣としては『玄武』ということですが。

水星のアスペクトが最も多い人は、その時々状況や雰囲気に合わせて何事も臨機応変に対処し、神経過敏で話術に優れ、アイデアや研究心に富み、多くの人たちと交際し、若々しい生活を続けていきます。

数秘学上では、水星には『5』が当てはめられ、男性数『3』と女性数『2』を合わせた数として、表現力がある、社交性が豊か、いつまでも衰えない生殖力、折衝・代理・仲介の才能があることなどを表しています。

黄道12星座上では、太陽や月（太陰）の支配星座に隣接している『おとめ座』や『ふたご座』の支配星となります。そして、ふたご座は水星の『夜の家』、おとめ座は水星の『昼の家』として割り当てられています。実際の太陽系宇宙でも、太陽から最も近い軌道で回っている水星は、占星学的にも太陽の隣人なのです。

陰陽・五行理論に彩られている中国では、水星は金星からパワーを与えられ、土星からはパワーを奪われてしまいます。したがって金星とのアスペクトは幸運を招いて、土星とのアスペクトは不運を招きます。

中国に初めての統一王朝をもたらした秦の始皇帝は、『水徳』といって水星に支配されている王朝という自覚を持っていました。夏王朝は『木』、殷王朝は『金』、周王朝は『火』、そして秦王朝は『水』の支配を受けていくはず、というのが王朝交代理論としての五行相勝説（現代の相剋説）です。

それゆえ五行上の『水』の色とされる黒の衣裳をまとい、『水』の季節とされる冬10月を年初としていたのです。二世皇帝となる息子には『胡亥』と名づける『水』に関連ある文字を扱んだと思われるのですが、すぐ秦王朝は滅び去ってしまいます。あなたは知的なタイプですから、こういう話しには興味をもたれるかもしれませんが、五行の相剋理論だけでは、未来を予言したり、国の隆盛を語ることはこのように無理があるのです。

■結論

最後に具体的に、水星の性質を説明してみましよう。

支配星の水星が幸運に作用すれば、書くこと、聞くこと、話すこと、読むこと、など情報収集という行動のすべてが人生に有効に生かされ幸せを運んできます。不運に作用すれば、うそ、偽りが多く、裏切りと陰謀に満ちた人生となります。しかし、いづれにしても、環境にあわせて、頭を柔軟に対応し、頭脳を中心とした人生であることには、間違いありません。

この頭脳が、穏やかに作用するのか、破壊的に作用するのかは、水星がどの星の影響を受けているのかで決定されます。たとえば、木星の影響を受けると、学術や哲学といった能力や思考が深くなり、温和なバランスのとれた知性を生み出します。しかし、火星の影響を受けると、どこかにかたよっていて、あることだけを専門的に知りすぎていなければならないという、常識的な思考ができないという破壊的で否定的な思考が多くなってしまいます。

また、太陽の影響を受けると、水星は、自分自身が主導権を握ることはできません。太陽が実行者で、それを知的に助ける情報処理能力者として活躍し、おざっぱな太陽の代わりにコミュニケーションをするようになるのです。

金星



■宇宙の中の金星

われわれの地球に最も近い惑星が金星です。その大きさも地球とほぼ同じくらいで、昔から『明けの明星』や『宵の明星』として親しまれてきました。金星の自転周期は243日と全惑星中で最も遅く、自らが3回自転(243×3)している間に、われわれの地球は太陽の周りを2回公転(365×2)している計算になります。

見かけ上の金星は、太陽や月に次いで大きく、白く、美しく、芸術的に輝いて

見えます。したがって、占星学上でも、金星は何よりも『美貌』や『魅惑』などの『美しさ』を表しているとされています。

■古代国家と金星

アッシリア・バビロニアから出土した粘土板には、太陽神シャマシユと月神シンと共に、金星神イシュタルが並んで描かれている図版がしばしば見受けられます。その大きさや明るさの点から言って、太陽や月と同じような扱いや役割を、他の惑星とは異なり、極めて太古の時代から金星は与えられていたようです。

『旧約聖書』の中にも、『イザヤ書』には『黎明（れいめい）の子、明けの明星よ』という一節があります。大英博物館所蔵の粘土板文書の中には、『金星がその定位置にあれば、王子の御代は長く、国土には正義があろう』という一文が述べられているものもあります。

神話上の金星は、エジプトではハトホルと呼ばれ、バビロニアではイシュタル、イナンナ、デイルバトなどと呼ばれ、ギリシャではアフロディテー、アルテミス、

セレスなどと呼ばれています。

中国の神話上では白くて美しい虎を意味する『白虎』を象徴していました。金星の呼び名としては『太白』、それを象徴する聖獣としては『白虎』が当てられています。

金星のアスペクトが最も多い人は、幼い頃から外見・容貌に恵まれ、周囲から愛されて成長し、優しく同情深い性質を持ち、悲惨なことや醜いことから目をそむけ、穏やかで楽しい人生の道を歩んでいきます。

数秘学上では、金星には『6』が当てはめられ、男性数『3』と女性数『2』とを掛け合わせてできる数であるため、男女間の愛情や結婚に幸福をもたらすこと、家庭的であること、などが先天運として与えられます。

黄道12星座では『てんびん座』と『おうし座』の支配星となります。そして、てんびん座は金星の『昼の家』、おうし座は金星の『夜の家』として割り当てられています。

実際の太陽系宇宙でも、金星は水星に続いて太陽に近い軌道を取っていますが、支配星の順序としてもそのように配置されています。

陰陽五行理論に彩られている中国では、金星は土星からパワーを与えられ、火星からはパワーを奪われてしまいます。水星に対しては金星がパワーを与えて、木星に対しては金星がそのパワーを奪ってしまうことになります。五行理論に基づく金星は、金物としての刀剣類をも意味し、武器、軍事との関連性をも象徴していました。金星が見え始めるべき時期に現れず、まだ見えているべき時期に地平線下へ隠れてしまうと、天下の兵事が収まり、本来なら見え始めるべきでない時期に現れると、天下に兵乱が起こる、とされていました。

■結論

最後に具体的に、金星の性質を説明してみましょう。支配星の金星が幸運に作用すれば、平和で争いごとのない環境の中で成長し、家庭運、対人・交際運、

恋愛・結婚に恵まれた人生となり、不運に作用すれば、快樂におぼれ、怠惰で墮落した人生となります。しかし、いずれにしても、男女間の愛情や感情、そして芸術的なセンスに影響される生涯であることは間違いありません。

また、金星は月と同様に、女性を意味していますが、金星のほうは、未婚の自由に動き回る女性です。月は結婚後の女性を意味し、比較的落ち着いた穏やかな感情を意味します。

つまり、金星が支配星のあなたは、華やかで楽しみが多く、人生観が一変するような恋愛体験、いかなるものを犠牲にしても貪欲に追求する愛欲といった方向に走っていきやすいのです。このように、軽い気持ちの恋愛ではなく、完全に相手を支配したり、あるいは支配されたりという徹底した深刻なレベルでの感情に支配されやすいのです。

火星



■宇宙の中の火星

太陽系の惑星の中で、地球とほぼ同じような速度で1日1回自転するのが火星です。火星は地球の約半分ほどの大きさの惑星ですが、その質量は9分の1しかありません。探索結果による現在の火星は、巨大な火山が聳え立ち、時速数百キロメートルにも達する砂嵐が吹き荒れている惑星でした。火星の表面は赤い酸化鉄に覆われているので、見かけ上の火星は赤く不気味に輝いて見えます。したがって占星学上では、火星には何よりも『騒乱』や『火災』や『闘争』を予告する暗示があるとされています。

■古代国家と火星

中国では、火星の不規則な動きに注目して『人君に警告を与える星』としての報告を残しています。『けい惑は、制令を受けて列宿（二十八宿のこと）を巡り、混乱を起こして賊害をなし、疾病を流行らせ死葬に至らしめ、飢餓を起こして兵乱をなす』といった内容です。『けい惑』というのは火星のことで、その星が赤道星座二十八宿のどこを通過しているかによって、これらの災難が引き起こされるのだ、と言いたいのです。

神話上の火星は、エジプトではセトと呼ばれ、バビロニアではネルガル、ムスタツバル、ギビルなどと呼ばれ、ギリシャではアーレス、マルスなどと呼ばれ、中国では呼び名としては『けい惑』ですが、それを象徴する聖獣としては『朱雀』（火の鳥・鳳凰）が当てられていました。

火星のアスペクトが最も多い人は、勇気と決断力に富み、闘争心が強く、予期せぬ事故やアクシデントやトラブルに巻き込まれやすく、敵やライバルが現れやすく、死の直前まで情熱的な人生を歩み続けます。

数秘学上では、火星には『9』が当てはめられ、男性数3を掛け合わせた数であるところから、肉体的な強さを示すとともに、天円360度を9分割すると、その中に正三角形が三つ組み合わさるところから、『完成数』としての意味を持ち、どこまでも理想を追い求めて、精神の放浪者になりがちな傾向を示すようです。

黄道12星座では、冥王星が発見されるまでは『おひつじ座』と『さそり座』の支配星でした。おひつじ座は火星の『夜の家』、さそり座は火星の『昼の家』とされてきました。現在では、さそり座の方は冥王星に変わっています。(40年ほど前までは、冥王星は『さそり座』の第2支配星とされてきました。)

陰陽五行理論に彩られている中国では、火星は木星からパワーを与えられ、水星によってパワーを奪われます。したがって、木星とのアスペクトは幸運を招き、水星とのアスペクトは不運を呼び込みがちです。これは、社会的発展のためには、闘争心と戦いが必要ですが、クールすぎる知的な戦術は、かえって戦いの情熱

に水をさすという意味があります。

ギリシャ神話では、火星であるアールレスはいつも二人の息子を連れていて、1人は『ディモス』危険』、もう1人は『フォボス』恐怖』と呼ばれ、どんな戦いにも寄り添うようについて歩いた、といわれています。実際の天文学上の火星も、二つの衛星を持っているのですが『ディモス』と『フォボス』と名づけられています。

■結論

最後に具体的に、火星の性質を説明してみましよう。

支配星の火星が幸運に作用すれば、年若くして独立し、開拓者精神に富み、次々と新企画にチャレンジし新記録を打ち立てます。不運に作用すれば、事件やトラブルに巻き込まれ、傷跡を残す人生となります。しかし、いづれにしても、戦いと競争と不和などのごたごたが多い人生であることは間違いありません。

また、火星と木星はともに成功と拡大の星ともいわれますが、その実現の方法が随分異なります。木星は、あくまでも、周囲から認められながら、組織の中で上昇していくのに対し、火星は、孤独で1人で、ファイト満々に立ち向かっていく成功を意味します。ですから、木星がバランスのとれた穏やかな人格なのに対し、火星は極めてかたよっていますし、専門的な武者的な性格です。そして、常に神経と意志が強い緊張状態にあり、ぎりぎりのところで、生活をしていくので、いつも余裕がなく、自分自身の生活の安楽さや身の安全には関心を持たないファイターであるといえることができます。

木星



無料版はここまでです

■宇宙の中の木星

木星は太陽系宇宙の中では、恒星である太陽を省けば最も大きな惑星です。その直径は地球の11倍、質量は318倍、体積は実に1300倍です。また、現在までに16個の衛星が確認されています。したがって占星学上でも、

占い師向け プロ向け

Windows対応ソフトウェアの紹介

・フォーチュンソフトは開業用・プロ向けの運命学ソフトウェアを専門に開発・販売して30年近くになる専門店です。

・どのソフトウェアからも鑑定書の印刷が数十種類可能です。印刷物を顧客に渡して、解説を行うことで占い師として開業することが可能になります。

星平会海プロ版

西洋・インド・七政占星学プロ版

新四柱推命プロ版

六壬神課・遁甲・易学プロ版

ホロスコープ図の読み方
～占いカウンセラー養成講座～

第2版

2016年9月末

Web

■出版元

(有)フォーチュンソフト

北海道河東郡鹿追町瓜幕西33線20の8

TEL 0156-67-2742

ホームページ <http://www.soft.co.jp/>

電子メール ckk02363@nifty.com

代表 天野雲海

主な活動

- 一、現実の生活を豊かにするための占いの普及
- 二、フォーチュンランチの運営
自分自身への調教が馬の調教に応用できる
アメリカン馬術の普及と指導
- 三、三十年計画で富裕層になるための
長期投資の普及と指導

検索

占い読本

アプリ内検索

占い読本 アプリの紹介

世の中に出回っている占いの本では決して知ることができない占いの真実をやさしく紹介します。占いの本を読んで本当の自分を知ることができましたか？他人の本音を知ることができましたか？そして人間関係がよくなったでしょうか？交際している異性の本音が診断できましたか？お金が回りだしたでしょうか？異性が欲しい人は異性を獲得できないと占いの意味がありません。お金が欲しい人はお金を得ないと意味がありません。占いて、開運するための道具ですから。筆者はサラリーマン時代の人事移動で多くの同僚がやる気をなくしていくのを見て、占いの研究を始めました。それから、自分自身の結婚、離婚、再婚、子育て、再婚、取引先の担当者の性格診断といった生活の現場で、占いを使って人の研究を続けてきました。その30年の成果を紹介します。

著作 有限会社フォーチュンソフト 代表 天野雲海



App Store
からダウンロード



Google Play
で手に入れよう

エゴが悪霊を呼び寄せる



靈感占い師の正体

悪霊に憑依されない生き方とは？



自分は靈感がないから、と思つて憑依現象とは縁がないと思つていませんか？筆者も靈感などはありませんが、なぜか靈感のある占い師や整体師などつきあうことが多くありました。彼ら、彼女達の靈感っていったいなにから生まれているのでしょうか？その正体をつきとめるまでの1年もの戦いを実録の形で紹介します。あまり知られていないことです。深刻なうつ病などの精神障害も悪霊の憑依現象と関係していたことを筆者は経験しました。

お金の心配から自由になる



欧米のエリート達が使う

陰陽投資術

人は感情で動く生き物 投資心理学



お金の心配からフリーになる人生。これをファイナンシャルインデペンデントと言います。いざそれだけのお金を手にしても楽しい人生を送れる人は、ほとんどいません。とくに親から財産を受け継いだ人、土地成金、こういった人はお金を使う能力がないために、やられてしまいます。お金を手にして、楽しい人生を設計できる人の多くは、欧米の長期投資家達です。彼等は人は感情の生き物であり、相場は感情で動くことを知っているのです。

プロの占い師が密かに使う

二巻

占い心理学 恋愛・結婚編



これさえ知っていれば開業できる技



プロの占い師が密かに使う

一巻

占い心理学 恋愛・結婚編



人の構造を知らないと占いは使えない



プロの占い師が密かに使う心理学

プロの占い師って、占いの面倒くさい理論をたくさん勉強しないと成れないと思っていませんか？これって大きな勘違いなんですよ。占いつて人を診断するものでしょ。だったら人の構造、人の心と身体の関係などを知っておけば、占いの理論なんて使わなくても99%のユーザーの相談ごとには、対応できてしまうのです。

それが占い心理学。古代中国ではそれを運命学の「奇法」として伝授されてきました。「奇」というのは中国では尊いということです。ひそかに売られている占い師が経験的に知っている奇法ともいえる心理学を伝授します。

もし占いのものでもビジネスをするなら占いの勉強よりもこちらを先に習得したほうが商売はうまくいくでしょう。

占いの真実を語る



星座別 性と愛の真実



筆者は五十歳を超えて離婚しました。そして若い女性と婚活していますが専門の占いを使って相性を診断し、性と愛に関して自分を実験材料として研究しています。そんな、性と愛に関する悩みの研究成果の一部を本書で紹介したいと思います。例をあげれば牡牛座の女性は男性を喜ばすのが得意で愛しているを連発してくれます。天秤座の女性は色気に反応せず知性に反応するので、愛していると云っても反応は薄いです。でも愛情の質は高いです。

占いの真実を語る



風水占いに惑わされた人々



工務店の社長、不動産屋の社長に原稿の執筆を協力いただきました。家の競売物件の多くは、風水家相にやられた家が多いのです。家を建てるとき多くの人は不安になって家相を見てもらいますが、これが危ないのです。家相鑑定に詳しい占い師に振り回された結果どうなるか？本当の風水って何なのか？を解説します。その他、筆者がビジネスの現場で経営者をコンサルタントした事例も紹介しています。

占いの真実を語る



女性は愛したい生き物

男性は愛されたいだけ



占いの真実を語る



星座別 不倫占い

不倫は本当に悪なのか



女性は男性から愛されたいと思っています。男性は女性を愛したいと思っています。しかし根本的な心理状態はそうではないのです。女性は愛したい生き物です。好きな男のワガママはかわいいと思うでしょう。しかし嫌いな男からの親切は嫌でしょう。だから頑張るべきなのは男性のほうなのです。女性から愛される男性でなければなりません。ではどんな男性が愛されるのでしょうか？星が腐敗しかかっている男性はもてません。

今の世の中の風潮をみると、芸能人や有名人が配偶者以外の女性と交際したら、完全に人格を否定されるような報道ばかりです。だから顔を知られている有名人は性欲を隠すようになりますが、その結果精神に異常をきたすようになっていきます。江戸時代の性文化はもっとおおらかでした。好きな男女同士がまぐあうのは自然なことで、そこで生まれたい子は親が育てられない場合は、村全体が育ていくというのが常識でした。